

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.33
2015. September

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て

2014年琉球病院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第42回琉球セミナー

国立病院機構琉球病院 副院長 大鶴 卓

平成27年7月17日に第42回琉球セミナーが開催され、2年前に当院で働かれていた松隈憲吾先生から、「認知症疾患医療センター(熊本モデル)による熊本の認知症診療ネットワーク」について講演していただきました。

松隈先生は、認知症の臨床・ネットワークを学ぶために熊本県に勉強に行かれ、地域拠点型認知症疾患医療センターの平成病院に勤務しながら、基幹病院の熊本大学病院で週に1回、非常勤診療医師としても研鑽を積み重ねています。

講演では、日本は超高齢化社会に突入しており、現在の高齢化率は25%を超え、65歳以上の高齢者では4人に1人が認知症とその予備軍であり、今後もその割合は高まることが予想されていることが示されました。

超高齢化社会に向けた対策として、熊本県は熊本大学病院を中心とした先進的な認知症診療ネットワークが構築されていることが示されました。基幹型認知症疾患医療センターの熊本大学病院を核とし、熊本県内の9つの地域拠点型の認知症疾患医療センターとネットワークを形成しています。大学病院は、困難ケースの診断・助言、専門医の派遣、各種研修会・症例検討会の開催などの指導的な立場を担当しています。松隈先生が勤務する平成病院は八代市にあり、地域拠点型認知症疾患医療センターとして、認知症とその予備軍の早期受診の促進、医療・介護・福祉・行政の連携による包括的なサポート、認知症に関与する多職種が参加する「やつしろ認知症研究会」の運営、市内の地域包括支援センターへの往診・訪問、家族会の開催に取り組んでおり、認知症に包括的に対応できる地域拠点病院として活発に活動されていました。また、平成病院はかかりつけ医や地域支援者の認知症の対応力を向上するための研修会や事例検討会を継続的に開催しており、認知症の患者さんができる限り生活の場で診療を受けることができる地域内ネットワーク体制も構築されていました。

今回は、松隈先生から先進的な熊本県の認知症臨床・ネットワークを教えてくださいと貴重な機会となりましたが、沖縄県では認知症診療のネットワークは未構築で、各病院がそれぞれ認知症患者さんに対し治療や地域ケアを行っている現状があります。松隈先生は、「認知症の患者さんを地域で支えるためにはネットワークが必要であり、沖縄県でも認知症診療ネットワークを作りたい」との将来構想を話されました。当院でもそれに貢献できるよう取り組んでいきたいと考えている機会となりました。松隈先生、ご講演ありがとうございました。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
- ・ユニット 4床
- ・重症心身
- ・障がい 80床
- ・医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩バス[77番名護東線]浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖繩自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
- 進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
- 機械設備 (株)三建設備工業
- 建築(第2期)工事 (株)浅沼組
- 新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月

教育・研修

- 依存症からの回復ツールのひとつ「12STEP」出張セミナー in 琉球病院
- 日時：平成27年9月5日(土) 12:00～16:00 場所：琉球病院 北病棟1階 集団療法室I
- 内容：12STEPとは・12STEPの考え方

●地域医療連携室だより

琉球病院では、一般精神をはじめ、アルコール・認知症・こども思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。最近では、思春期や発達障がいのご相談もたくさん頂いております。急性期病棟、クロザピン病棟、認知症病棟も新しく開棟し、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供できるよう、日々努力していきたくて思っております。受診のご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。



空床状況
8月26日現在

精神科病棟 10床	認知症 5床	アルコール 10床	児童思春期ユニット 2床
--------------	-----------	--------------	-----------------

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
FAX: 098-968-7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は145例になりました。平成27年7月の新規CLZ導入は3例でした。3例とも他院からの紹介例です。このうち、2症例は他院に入院中でしたが、精神症状が改善せず、CLZ治療目的で転院になったものです。重度の精神症状を持った患者様の病状がCLZ治療により改善しており、退院例も65例を超えています。週に3回の専門外来も行っていきますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年7月の治療実績は4例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

今年度より沖縄県から委託を受け、こどもの心の診療ネットワーク事業を展開していきます。この事業は地域の様々な機関をつないで、こどもの心の健康をネットワークでサポートしていくことをねらいとし、診療支援事業、研修・育成事業、普及啓発・情報提供事業などが含まれます。

今後、離島を含め県内のこどもの心に関わる他機関と連携しながら、より一層県内の子どもたちの支援が充実するよう、事業計画を立て、一部はすでに開始しております。医師やコメディカルの見学や実習等も受け入れております。興味関心のある方は地域医療連携室にお問い合わせ下さい。

認知症医療

認知症に関する啓発活動として、病棟見学の受け入れと地域へ出向いての出前講座を行っています。病棟見学は、病棟を実際に見ていただき、患者さんの入院生活の実際と病棟で行われている治療・ケアを理解して頂くものです。認知症に関するミニレクチャーも行います。

出前講座は、当院のスタッフが地域へ出向いて講義を行います。担当する講師は、医師・看護師・作業療法士・心理士・ケースワーカーが講演の内容に応じて担当します。講演の内容は、依頼者の関心がある事に合わせて調整します。具体的には、認知症患者さんを取り巻く社会制度から、家庭や施設の生活環境の調整、ケアの実際、事例検討、また認知症の予防など、依頼者の興味・地域の課題に合わせて講演の内容を作っていきます。認知症に関しては、正しい知識や基本的なケアの方法を知るだけで、患者さんは不安なく暮らせ、ケアを提供する介護者の負担を軽減できることがたくさんあります。

病棟見学会と出前講座、関心がある方は当院の地域医療連携室へお問い合わせください。

重症心身障がい児医療

当院の療育指導室では、現在年2回の頻度で、知的障がい・発達障がい児（者）に関するミニレクチャーを企画・実施しています。今年度第1回目の研修会を8月1日（土）に開催しました。テーマは動作法についてで、当日は沖縄国際大学人間福祉学科准教授の平山篤史先生にお越し頂き、動作法の理論と実践についてご講義頂きました。当院の高江洲心理療法士も講師に加わり、参加者の皆さんと共に動作法の実践を中心とした学びを深めました。動作法は、当院の重症心身障がい病棟でも実践しております。身体を介したやり取りで、気持ちが穏やかになることを目的に行っています。次回のミニレクチャーは、来年1月を予定しております。テーマは毎回変わりますが、知的障がい・発達障がい児（者）に関するテーマで開催します。参加費無料で行っておりますので、ご興味・関心のおありの方は、当院の療育指導室までお問い合わせください。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では7月現在、外来通院の患者様68名、入院中の患者様16名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

去った平成27年8月6日（木）、平成27年度第2回児童思春期アルコール関連問題研修会を終日かけて開催しました。沖縄県の児童思春期における飲酒問題について、当院アルコール病棟スタッフが講師を務め、若年の依存症の特徴、関わり方についてお話を頂きました。行政の保健師以外にも、警察、中学校の教職員、青年センター職員、那覇地方裁判所からも参加頂き、医療のみならず多方面から、また石垣島、宮古島からと遠方からも参加頂き、連携の輪が広がっていることへ感謝致します。また、研修会を通し、学校での講演依頼のお話も早速頂きました。今後とも地域へ貢献できるよう努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

包括的地域精神医療（ACT）

猛暑の時期が続き、体調管理が難しい時期でもあります。風邪やインフルエンザなど当院でも職員や職員の家族に数名発生しています。訪問看護利用者の方も、上手く水分補給や室温調整ができず熱中症など注意を要する方もおります。又、寝苦しい時期で睡眠が十分にとれず病状悪化する方もおります。当院の訪問看護スタッフは、暑い時期を乗り越える方法を利用者と一緒に対応を考えて、上手く乗り越えて行きたいと思っております。暑い季節の過ごし方があれば、アイデアを募集していますのでお気軽に訪問看護スタッフへお知らせください。

臨床研究部活動状況

【琉球病院における抗精神病薬の減量化にむけた取り組み】薬剤科 益崎和也

従来、日本における統合失調症の薬物療法は多剤大量療法でした。当院でも平成17年度までは多剤大量療法でした。しかし、平成18年度より単純化に向けて処方内容の整理を開始し、平成23年度には減量化に関する臨床研究(SCAP法)に参加しました。平成25年度は、SCAP法の内容を参考に減量化を実施しました。これまでの減量化について、PCP研究会の調査と比較した結果、単剤化率は全施設平均と比較し上がりましたが、CP換算値平均は依然として高い状況にあることがわかりました。今後も継続し減量化を行っていく意義があると考えられました。

